

神奈川県湯河原市における「タブノキ」の樹勢回復処置の一例

片岡日出美 ((株)木風) ・ 〇森広志 ((株)いい林業)

はじめに

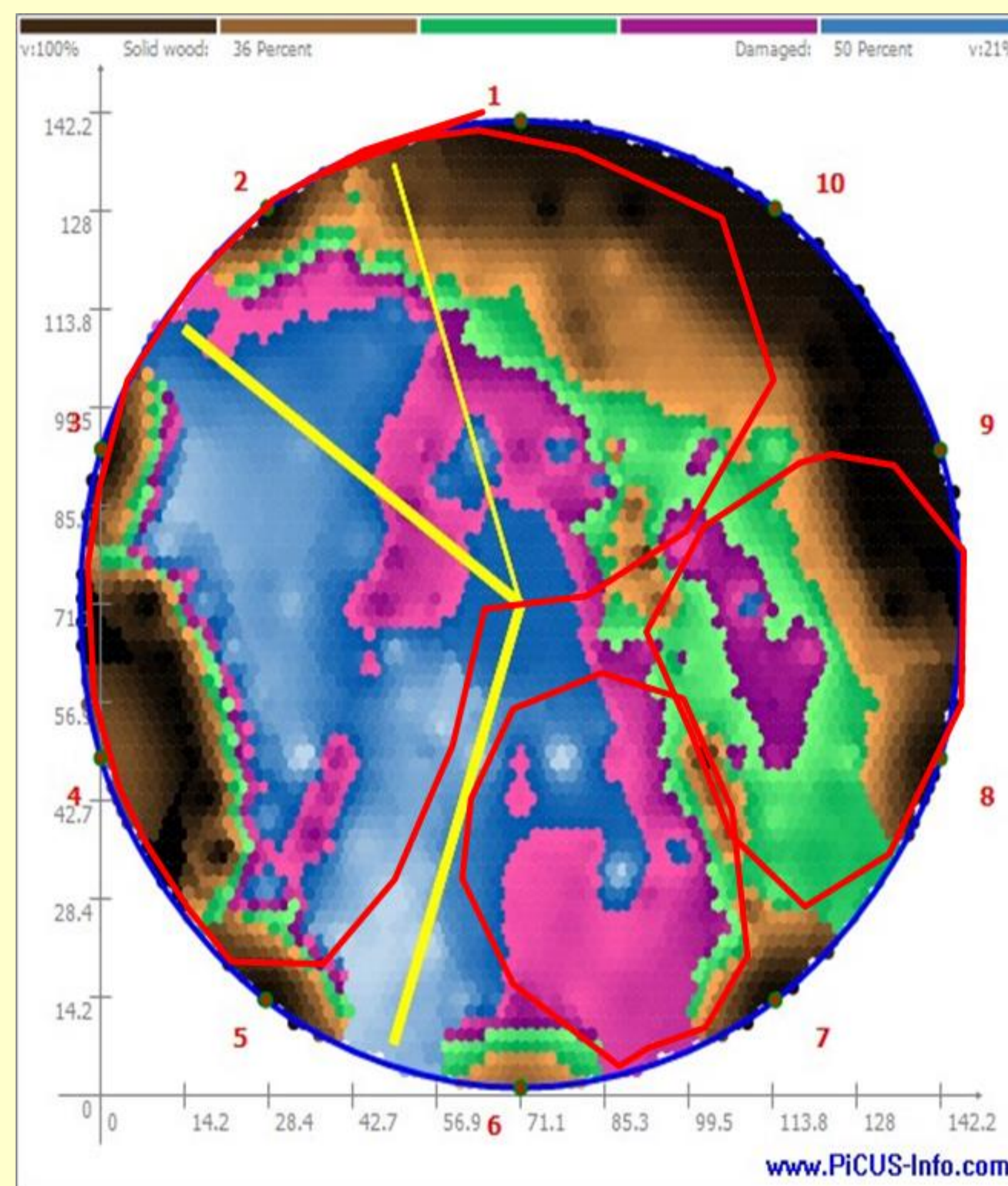
神奈川県湯河原市の個人邸別邸に生育する「タブノキ」、H=2m,C=4.6m,W=20mが今回の対象木である。

元々この敷地内にあった大木で、2011年の建物建築時に周囲の舗装工事をを行い、大枝や太根等が切断される。周辺土壌もインターロッキング等で覆われたため、養水分の通道不良により回復できず、各所切断部から腐朽が進行している状況である。数年前から明らかに樹勢が衰退し、その対応として、腐朽部にウレタン等が充填された。しかし、衰退は止まらず、上部の枯枝なども増え続けていた。今回、施主依頼のもと、2018年2月にピカス診断を用いた現状調査を行い、同年3月に以下の樹木治療処置を行ったので報告する。

<調査時の様子>



◆外観診断及びピカス診断の結果 (2018年2月8日実施)



<特記事項>

断層画像に見られる黄色線は、亀裂又は入り皮等の可能性があることを示す。今回は株立ちの大木だったため、楕円計測を行っており、腐朽率は補正が必要である。画面上、5・6番間の黄色線は株立ちで分枝している部分。およそ、橙線のラインで株が分かれているため腐朽率はマイナスして検討。

<その他の観察事項>

・腐朽した太い根 (直径約30cm程度) や、主幹・大枝の腐朽もあり、上部に枯枝が多く発生。
・種子も多く確認された。(→)
・多数の子実体あり (↓)



<予想腐朽割合>

初期腐朽14%、腐朽50%、(相対最低音速21%)
最終腐朽率 約30%

<判定説明>

初期腐朽は14%で、腐朽率50%と非常に高い腐朽率になるが、株立ち形状のため、最終腐朽率は面積比より約30%に補正され、「**ほぼ不健全に近い状態**」。相対最低音速も21%で進行形の腐朽と判定された。

◆樹勢回復処置 (2018年3月15日～19日実施)

【土壌・根系処置】

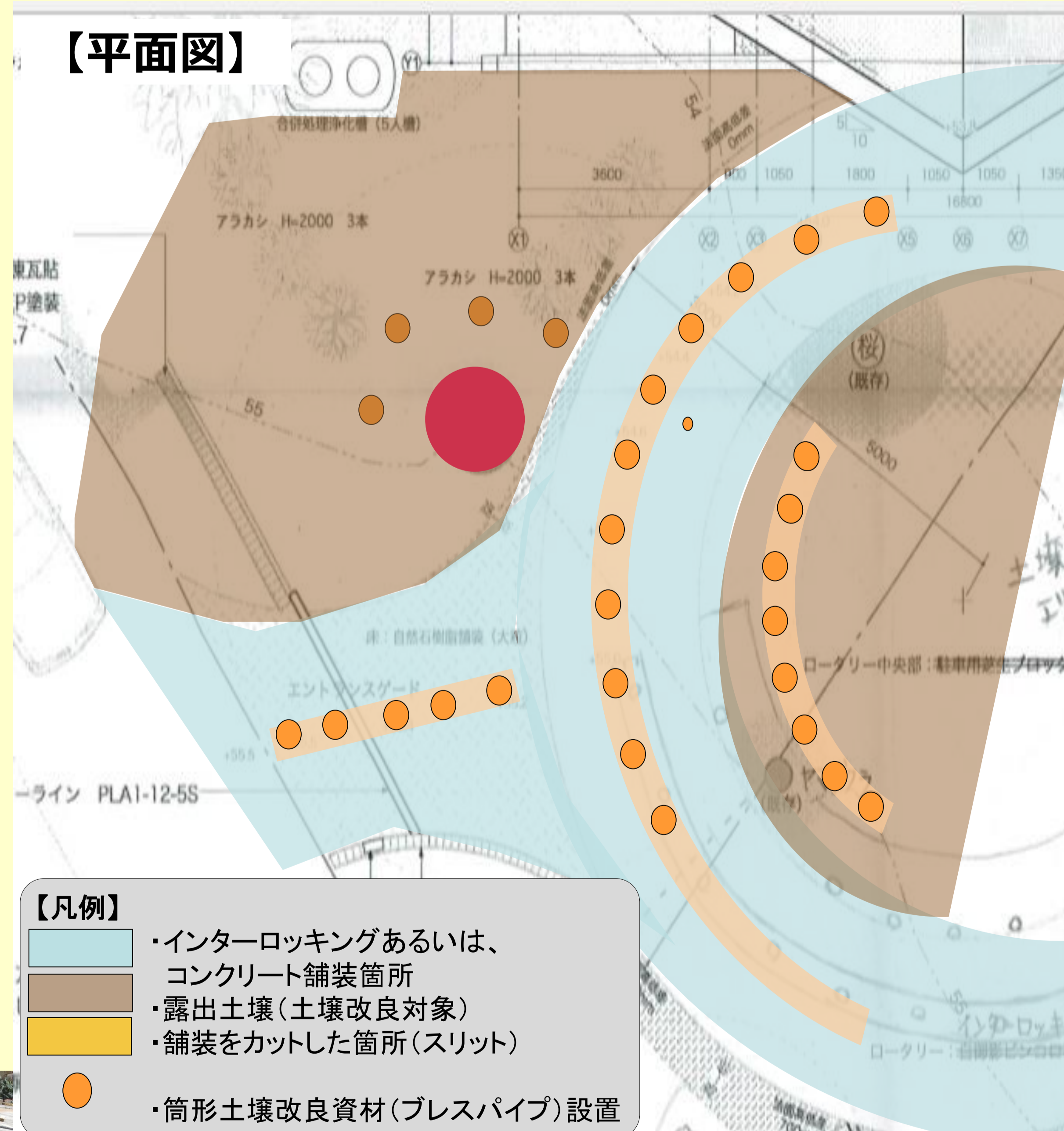
手順① (腐朽した太根 (直径約30cm程度) を確認)
・インターロッキング等を外し、土壌を掘り返し。
・腐朽部を除去し、発根促進剤の塗布。



手順②
・土壌に竹炭、土壤再生炭 (アミノ酸系) を混ぜ込み、埋め戻し
・竹パウダー、腐葉土を、表層に散布。

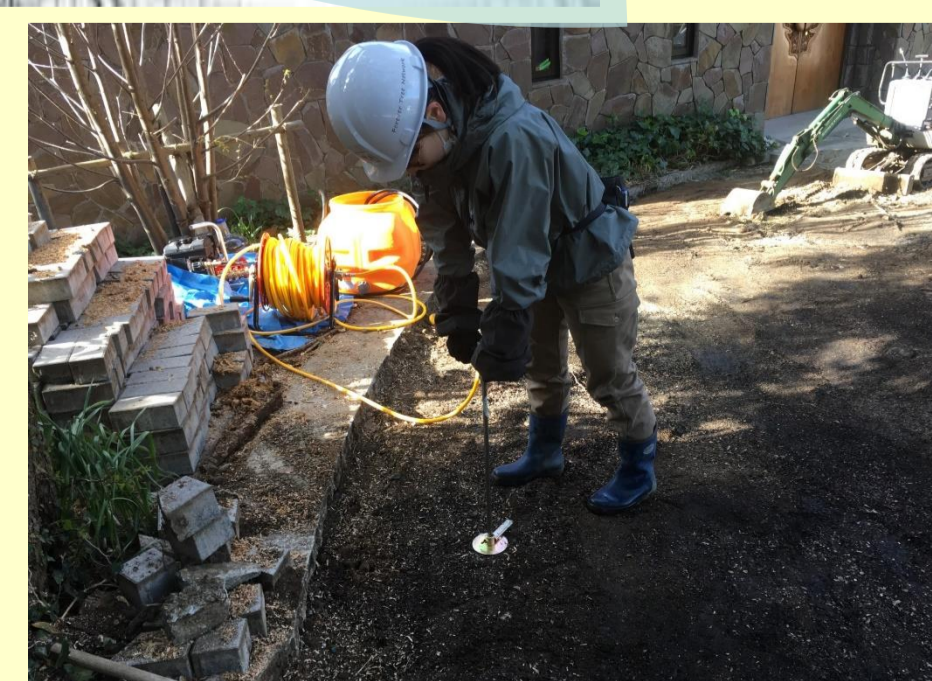


手順③
・通気透水性確保のために、舗装にスリットを入れ、そこに筒形土壌改良資材 (プレスパイプ) の埋設。
・砂利で化粧。



- 【凡例】
- ・インターロッキングあるいは、コンクリート舗装箇所
 - ・露出土壌 (土壌改良対象)
 - ・舗装をカットした箇所 (スリット)
 - ・筒形土壌改良資材 (プレスパイプ) 設置

手順④
・液体肥料を土壌灌注。
(動力エンジン噴霧器に土壌灌注用の専用ノズルを使用。最高圧力3.5MPa)



【枯枝や腐朽部の処置】

手順① (健全な枝葉のうち約25%程度枯枝が発生 (目測))
枯枝を除去し、殺菌剤 (キニヌール) を塗布。



手順② (株立一部・大枝の腐朽。(幹周120cm程度))
腐朽部 (完全に腐り組織が欠落している部分のみ) を除去。
殺菌剤の塗布。



【完工】



まとめ 樹木の樹勢回復処置の取り組みとして、
・舗装を一度すべて撤去して、大規模な土壌改良を行った。
・通気透水性の確保のために、インターロッキング等の舗装にスリットを入れ筒形土壌改良資材を埋設した。
・腐朽部や枯損箇所は丁寧に撤去し、殺菌剤を塗布した。施術後の状況については、随時報告の予定である。

